



楽しい!出来た!だから見せたいの!

主任 増田 早津岐

ある日の午後です。3歳年少組の子どもたちが、園長室にドヤドヤと皆でやってきました。園長先生に一生懸命訴えております。



始めは頭に?マークがいっぱいの園長でしたが、よ〜く話を聞くと、“自分たちは、『てぶくろ』のお話ごっこをしているのだけど、とっても楽しいからお母さんたちを呼んで見せてもいいか”ということを交渉にきたわけです。もちろん園長は「それはいい考えだね」と快諾。こうして、**自分たちが“やりたいからやる発表会”**をする運びとなったわけです。入園して初めての発表会をこんな経緯で迎えるのですから、ワクワクが倍増です。

この時、自分が幼稚園の年長だった出来事をふと思い出しました。何のお話だったのでしょうか。定かではありませんが、砂漠の王子様…主役でした。背が高かったからでしょうか、先生が決めた配役です。でも、心の中はいつもどんより。練習が苦でなりません。だって、その他大勢でいいから、王子じゃなくお姫様になりたいかったのですから…。そんな思いは日の目を浴びることなく、どんなストーリーかもよく分からないまま、セリフと動きを教えられ、やるにはやったものの、劇なんてつまらない!…そんな苦い感情がふっと蘇ってきました。(もうウン十年も前の話ですけどね。)



話は、本園に戻ります。消防ごっこが大好きな年中組は、10月に近くの消防署に見学に行きました。戻ってきたらすぐさま、さらにリアルになった消防ごっこが始まりました。強い消防士になるために、体を鍛えることも始まりました。そんな経過を経て、「消防ショー」が演目の一つに選択されました。

年長組は、ビニール袋遣いの達人です。今まで、キノコや虫など、新聞紙とビニール袋を使って、自分たちで工夫していろいろなものを作ってきました。「え…こんな物も出来たんだ!」と驚きの連続でしたが、発表会では、さらに、劇のお面にもなっちゃいました。



<きのこ作り>



<リスのお面>

自分たちが楽しんできたこと、できるようになったことを、「やりたいから」「見てほしいから」考えを出し合いながら自分たちで形にしていって発表会…それが本園で大事にしている発表会です。内容も、使う道具も、今までの経験がたっぷり生かされています。派手さはないかもしれませんが、その分子どもの**思い入れ**と**考え**と**工夫**がたっぷりつまった発表会です!

